

発行所
広島市東区二葉の里
2丁目6-25
明星院
TEL 082-261-0551
FAX 082-262-1827

明星院だより

奉祈天下泰平 万民豊楽



当山所蔵

毘沙門天王



福寅



壬寅

元旦

今から千四百年前、聖徳太子は、物部守屋を討伐せんと河内稻村城へ向う途中、大和国信貴山に至りました。天空遙かに毘沙門天王が御出現され、必勝の秘法を授かりました。その時は奇しくも寅の年、寅の日、寅の刻（明け方三時〜五時）でありました。太子はその御加護で勝利し、自ら天王の御尊像を刻み伽藍を創建、信ずべし貴ぶべき山『信貴山』と名付けました。以来、寅が三つ重なると聖徳太子にあやかって「毘沙門さまの御利益がいただける」と言い伝えられ、「寅」のことは「福」が授かる「福寅」と呼ばれてきました。又、七福神の中でも福随一といわれ、商売繁盛・金運如意・福德開運の福の神として篤く信仰されています。

恭礼三宝

第一条「和を以って貴しと為す」で始まる十七条の憲法では第二条に「篤く三宝を敬え。三宝とは仏法僧なり。」と謳われています。即ち仏とは悟りを開いた人、法とは仏の説いた教え、僧はその教えをひろめる僧のことです。

道歌に学ぶ ― 先人の枕ことば ―

ついに行く道とはかねて聞きしかど
昨日今日とは思わざりしを

平安貴族の中でも、美貌を謳われた在原業平の詠んだ歌というのが惜しいですね。業平さんも死ぬのが怖かったのでしょうか。なんのかんのといながら、結局みんなあちらの世界に旅立つのですよ。わかってはいるのですが、それがいつなのかわかりません。わからないからこそ、こうして毎日を平々凡々と暮らすことができるのも事実ですね。

もし自分の最後がわかったら、みなさんは平静でいられますか。ガンという病は、転移の進行状況で余命がわかるそうです。お医者さんが、「大丈夫だから」という禅の高僧に、ガンを告知した途端うろたえてしまい、数ヶ月で亡くなったという有名な話があります。生れては死ぬるなりけり 押しなべて 釈迦も達磨も 猫も杓子も

これは一休禅師の歌だと伝えられています。「生れたからには死ななければならぬ。この心理から逃れることはたれもできん。お釈迦さまも達磨大師も、さらには猫も杓子も」というわけです。ところで、余計なことですが、「猫も杓子も」というのはどういう意味でしょうか。

これは「猫が杓子で飯を盛った」などということではありません。「杓子」というのは「釋子」で、釈迦の子どもすなわち「坊さん」のことです。「猫」というのは「欄干」が訛ったものです。欄干とは「存じ」しょうが「神主さん」のことですね。ということは、坊さんも神主さんも、共に死から逃れることはできないということですね。一説では「女子（めこ）も弱子（じやくし・子どもの意）も」が転じたともいうそうです。ともかく、「誰もかれもみんな」という意味ですね。いずれにせよ、私たちは仏さまのお迎えがいつ来てもいいように、それなりの準備をしておく必要があります。【立つ鳥跡を濁さず】といいますが、ね。

朝夕に なでさすりたる 黒髪も 老いて白髪と なりにけるかな

こんな感慨を持たれる方も多くとおもいます。しかし、だれしも避けられないことなんです。考えてみると、自らすすんで年を取ったという人はいません。意識するしないにかかわらず、勝手に時間は過ぎてゆきます。その過ぎ行く時間と折り合いをつけ、うまく付き合っていくしかありません。

令和四年 明星院行事予定表

一月一日〜三日	修正会・新年初祈禱
一月二十一日	大師堂・御影堂地鎮祭
一月三十日	開運厄除祈願節分星祭
三月二十一日	春季彼岸会
六月中旬	大師堂・御影堂上棟式
八月上旬	お盆勤め
八月十三日	うら盆施餓鬼会
九月二十三日	秋季彼岸会
十二月十一日	赤穂義士討入り大祭



編集後記

☆先代の綿入れを着て去年今年」☆平成三年の宮沢総理以来の広島からの岸田総理誕生は奇しくも令和三年。ご活躍を祈ります。☆五日より寒に入ります。寒さ絶頂といわれる大寒は二十日、どうぞくれぐれもお身体御自愛下さい。

大師堂・御影堂 新築工事経過報告

新春を迎え謹んで檀信徒ご一同様のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。平素は当山興隆のためにご芳情を戴き誠に有難うござい

ます。このたびご依頼申し上げておりますように大師堂・御影堂新築事業につきまして、格別のご高配を賜り有難く衷心より御礼申し上げます。お陰をもちまして、志納金申込額も当初の予想を上回る見通しで、入金状況も堅調に推移致しております。

さて、当事業は平成三十年に発願し、本尊弘法大師御影（三体）・十二大弟子尊像・弘法大師御一代記・高野山絵図・御遺告の表装が完成し、昨年中に土地整備を終えております。年が改まって、付帯工事が始まり地鎮祭、基礎工事、上棟式へと進めてまいります。又、本尊の脇仏として安置する金剛薩埵・弥勒菩薩は、京都大仏師松本明慶師に依頼し一刀三礼のもと両尊像を製作いただいております。

本年十二月末日の竣工引き渡しに向けて、少しずつ設計通りの堂々たる偉容を表してまいります。続いて来年早々より仏像仏具の荘厳を予定しております。

御朱印のぼれ話

納経（御朱印）とは、参拝者が写経をお寺に奉納し、その受領の証として納経（御朱印）を授与したことに始まります。現在は参拝した記念として志納金でいただけます。

大変好評をいただいている当山に安置している仏像七体（左記以外に千手観世音と不動明王）の御尊像印の御朱印に加え、新たに切り絵二体の御朱印が作られ授与されています。



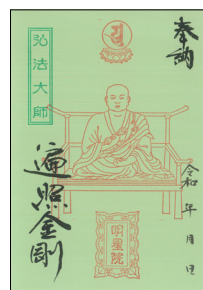
阿彌陀如来



薬師如来



毘沙門天



弘法大師



地藏菩薩

吉祥切り絵御朱印

本尊千手観音菩薩を表現し、蓮華王とはその別称です。四十手に各々二十五の御利益があるとされ、四十×二十五で千となる。それに合掌・定印を加え、頭上に十一面、更に頂上に阿彌陀仏が付いています。



千手観世音



不動明王

護摩堂本尊不動明王を表現し、阿遮羅とはその別称です。岩上に座し、右手に宝剣左手に絹索を持ちます。火焰を背に、真正面に目を開き偉丈夫の姿に作成されています。

我昔過薩埵 親志傳印目

發無比誓願 陪邊地異域

薩埵とは
金剛薩埵



御影堂 本尊

晝夜愁萬民 往普賢悲願

肉身證三昧 待慈氏下生

慈氏とは
弥勒菩薩



十二大弟子

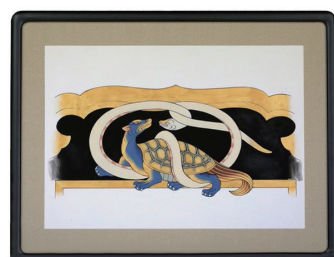


弘法大師と御宇多法皇宸翰

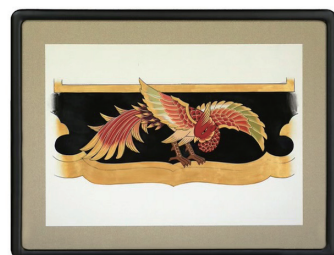


十二大弟子

玄武（北）



白虎（西）

大師堂の四方を
守護する四獣神

朱雀（南）



青龍（東）

被爆樹木イチョウ無残

樹齢約百五十年と推定される境内のイチョウは、昭和二十年八月六日に被爆しましたが奇跡的に樹勢を復活させて、毎年秋には黄葉の絨毯と、たわなに実る銀杏は風物詩でした。昭和六十二年六月に落雷の直撃を受けて樹冠が裂け、更に平成十六年九月七日の台風十八号、十月二十日の二十二号の暴風により、倒木は子安観音の光背をねじ曲げ左手を寸断しました。

そして、令和三年八月九日台風九号の暴風雨により全ての枝が折れてしまいました。不思議なことに、これだけの被害を受けましたが、周辺の諸仏と御堂は全く無事でした。

調査の結果、樹木の中心より雨水が浸透し、根元近くまで腐食が進んでいました。それでも懸命に生き続けようと新芽を出す姿には感銘を覚えます。このたび防腐処理を施し、内部に観音菩薩仏頭を安置し、霊木として生命の尊厳を讃えることにしました。

子安観音の雛型
として造られた仏頭